

大分大学医学部附属病院 精神科 専門修練プログラム

1. プログラムの概略・特徴

大分県の精神医療を担いつつ、世界に向けて精神医学研究の成果を発信できる精神科医を育てる。

2. 研修目標

【一般目標】

- ・2年間の研修を終えた後に、精神科医として専門的な修練や精神医学の研究を行う。

【行動目標】

- ・統合失調症や気分障害、不安障害や認知症など代表的な精神疾患を確実に診療できる。
- ・特に難治性精神疾患の治療において、薬物による増強療法、修正電撃療法を的確に使用できる。
- ・精神科救急、リエゾン・コンサルテーション、緩和ケア、性同一性障害の診療も経験する。
- ・臨床へ還元できる研究に一定期間従事することで、臨床に即した科学的な物の考え方を身に付ける。
- ・精神保健指定医や各種専門医の資格が所得でき、博士号の学位も所得できる。

以上の過程を経ることで、種々の資格取得はもちろんのこと、いわゆるエキスパートオピニオンに左右されることなく、自分でエビデンスを収集し、それを吟味した上で臨床に活かせる、自立した精神科医になれる。

3. 研修スケジュール

3年目～凡そ10年目：以下のA～Dのいずれでも良い。他のパターンも個別に考慮する。

	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
A	大学病院	関連施設	大学病院			関連施設		
B	大学病院	関連施設		大学病院		関連施設		
C	大学病院	大学院			留学	関連施設		
D	大学院			留学	関連施設		大学病院	

4. 評価

指導医が評価を行い、教授が総括する。

5. 募集人員

1年あたり 5人程度

6. 実施責任者

堤 隆 (外来医長)、花田 浩昭 (病棟医長)

7. 指導責任者

寺尾 岳 (教授、科長)

8. 関連施設、学会認定状況

大分県内の多数の関連病院と連携し、精神保健指定医、日本精神神経学会専門医などを、多くの医局員が取得している。平成23年度より、大分県立病院、こころとからだの相談支援センター (旧大分県精神保健福祉センター、ハートコム大分)、平成24年度より別府医療センターにも当科の医師が常勤で勤務する態勢となり、大分大学医学部附属病院を中心に、これらの医療機関との連携もさらに深まっている。

9. その他

精神医療は、一人一人の患者さんに対して、薬物療法、精神療法、作業療法など種々の治療法を組み合わせた包括的医療により、無理のない社会復帰を目指していくことが目標となる。

当科では精神疾患を生活習慣病の視点から捉え、患者さんにとって最良の医療を目指して日々診療にあたっている。3年前より外来および入院患者さんを対象に、作業療法室を開設して活発に作業療法を行っており、治療効果をさらに高めている。また外来ではうつ病患者に対するリワークを目指しての集団精神療法等も行っている。さらにリエゾン精神医療では、進行がん患者を対象にするサイコオンコロジー (緩和ケア) も研修ができるなど多面的な精神医療の研修が可能になっている。また認知症外来、睡眠外来、引きこもり外来、性同一性障害外来等の特殊専門外来も意欲的に診療を行っている。この5年間での年間外来受診患者数は2倍以上の増加を見ている。我々は精神医療の重要性を深く自覚し、患者の精神的な苦痛の改善を目指し、それに向かって日々努力している。

大分大学医学部精神科では、28名の医師に加えて、4名の臨床心理士、1名の作業療法士、1名の精神保健福祉士 (精神科ソーシャルワーカー) が在籍しており、薬剤師、看護師も加えた他職種が協力したチーム医療で、この目標を達成している。

後期研修においては、このような治療環境に身を置き、個別に指導を受けることができる。このため、後期研修修了時には包括的な治療計画の策定とその実行が自力で可能となる。

10. 連絡先

引地 孝俊 (医局長) 097-586-5823 (医局) hikichi@oita-u.ac.jp